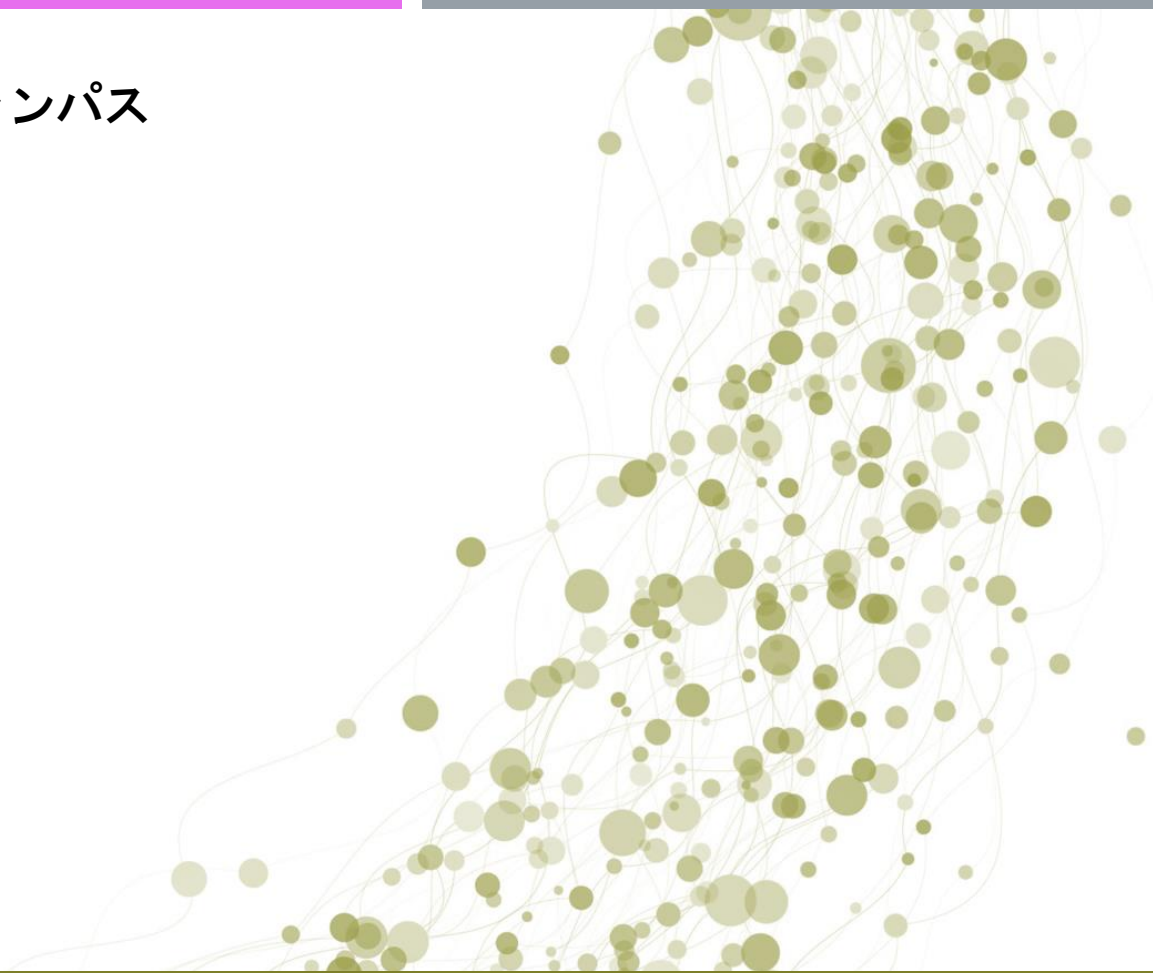


日本発達心理学会関西地区懇話会主催シンポジウム
2025年3月8日(土)12:30-14:30@関西学院大学梅田キャンパス

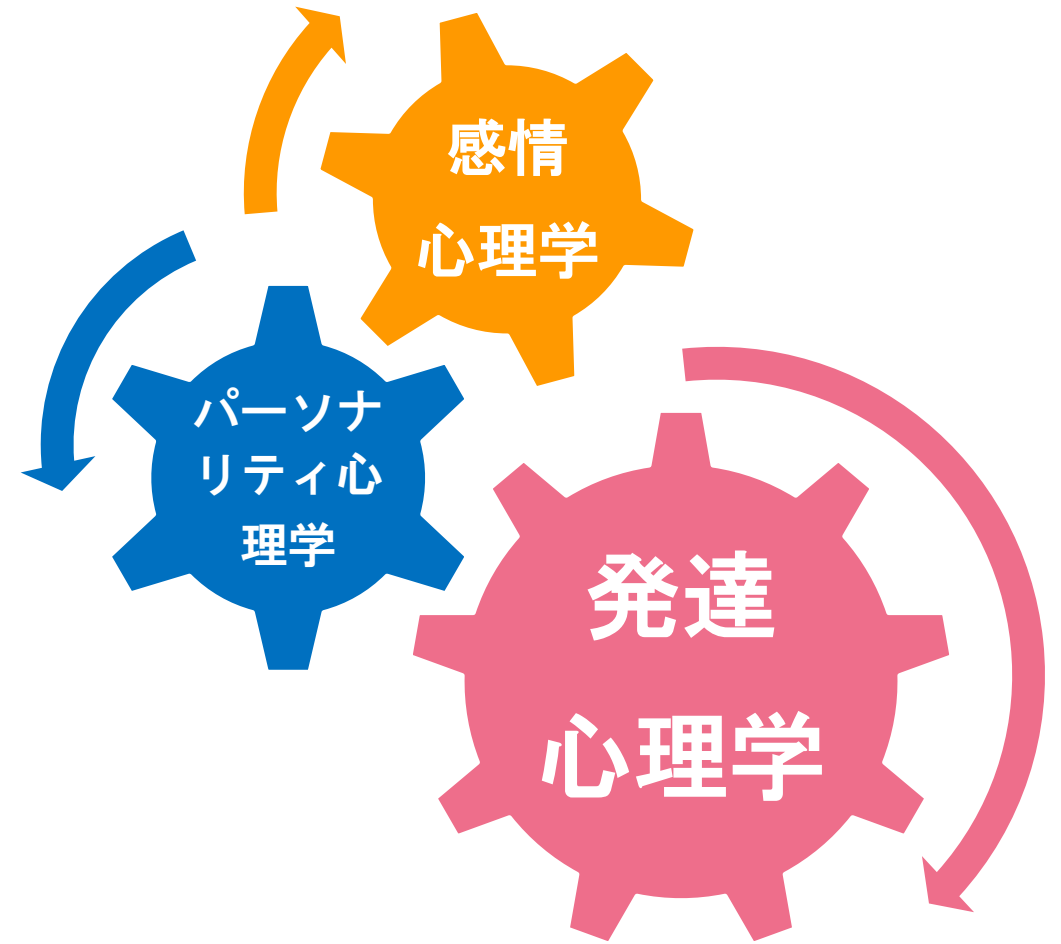
BOLD参加者全員を 対象としたコア調査 ：乳幼児の気質

箕浦 有希久（佛教大学教育学部臨床心理学科）



気質/temperament とは何か

- 身体的・生物学的基盤に由来し、
感情的・生理的な反応や行動の
個体差を生み出しているもの
- 成長とともに顕れる
パーソナリティ（個性）の“初期値”



気質を研究する（臨床的）意義

乳幼児の気質研究の嚆矢、1960年代のトーマスとチェスの
ニューヨーク縦断研究では、以下のように考えられていた。



- 「難しさを感じる子」の育児をする養育者の中にはすべての原因が自分の子育てにあると考えて罪悪感や無力感に苦しむ人がある。そうして育児ストレスが過剰に高まれば養育の状況はさらに悪化し、いっそう子どもの問題行動が顕在化するという悪循環にも陥る。育児に悩む養育者にとっては、子育ての技術や知識だけが一方的に子の特徴を決定するのではなく、子の生まれ持った特徴も併せて考慮する視点が救いとなる。

ニューヨーク縦断研究で提案された9気質次元

活動性	身体活動の活発さ	気分の質	親和的行動・非親和的行動の頻度
周期性	睡眠・排泄などの身体機能の規則正しさ	持続性	特定の行動に携わる時間の長さ・集中制
接近と回避	新奇な刺激に対する積極性・消極性	気の紛らわせやすさ	外的刺激による気の散りやすさ
順応性	環境変化に対する慣れやすさ	反応閾値	感覚刺激に対する敏感さ
反応強度	泣く・笑うなどの反応の強さ		

ニューヨーク縦断研究で提案された3気質類型

扱いやすい子(育てやすい子)	乳児の約40%	日常リズムが規則的、新しい環境に慣れやすい、機嫌が良いことが多い
難しい子(育てにくい子)	乳児の約10%	日常リズムが不規則的、新しい環境に慣れにくい、機嫌が悪いことが多い
エンジンがかかりにくい子	乳児の約15%	新しい環境に最初は不適応的だが、時間をかけて適応的になる
その他	乳児の約35%	

乳幼児の気質研究の概観（上村, 2016）

- バスとプロミンのコロラド養子研究

情動性/emotionality

活動性/activity

社会性/sociability

- ゴールドスミスとキャンポスの情動表出研究

喜び

恐れ

怒り

運動の活動性

興味の持続性

- ロスバートとデリーベリーによる（情動や行動の）反応と制御の研究

ポジティブ反応性

ネガティブ反応性

エフォートフルコントロール

- ケイガンの行動的抑制性研究

行動的抑制傾向

乳幼児以外の気質や情動の理論

- ストレウのパブロフ学派気質理論

興奮＝神経強度

抑制＝平衡性

易動性

- グレイのBIS/BAS理論・強化感受性理論

行動賦活系（行け）
＝衝動性

行動抑制系（逃げろ）
＝不安

FFFS（慎重に行け）
＝闘争-逃走-凍結反応

- パンクセップによる大脳辺縁系の基本感情システム

探索/seeking

怒り/rage

恐怖/fear

悲痛/panic

- クロニンジャーの神経伝達物質に基づく気質理論

新奇性探求

損害回避

報酬依存

固執

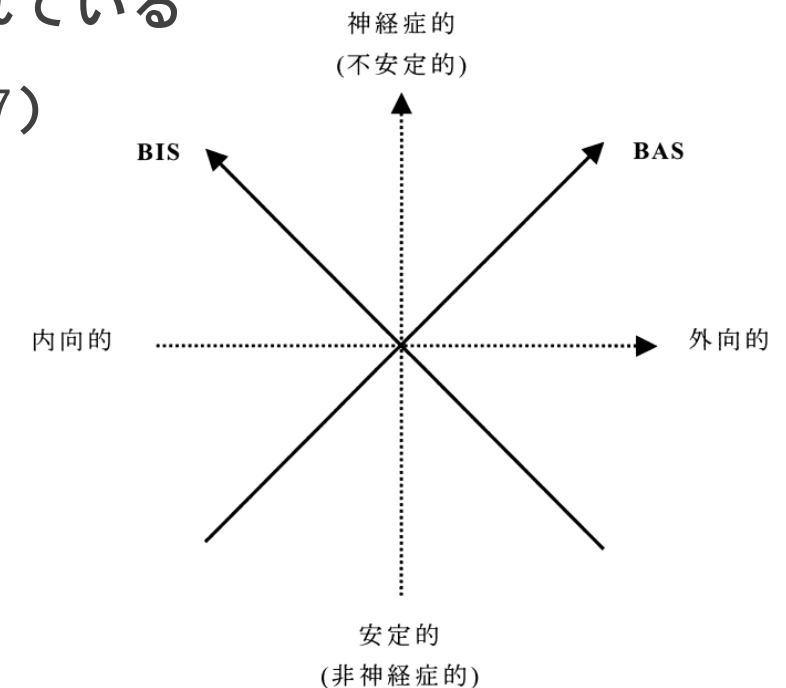
＋性格

ロズバートらの研究

Mary Rothbart



- 生後3か月から成人まで、年齢段階ごとに作成された6種類の気質尺度
- 発達段階を通貫して互換的に理解可能な下位尺度で構成されている
- 下位尺度群はおおよそ以下の3因子に分かれる（水野, 2017）
 - 「接近快活性」：ポジティブ情動の反応性における個人差
 - 「行動的抑制傾向」：恐れ的情動反応性における個人差
 - 「エフォートフル コントロール」：情動制御の個人差



高橋他(2007)より

Figure 1 Eysenck による 2 軸（神経症傾向と外向性）と Gray による 2 軸（BIS と BAS）の違いの模式的表現

適用年齢	略称	尺度名	日本語版項目数
3-12 months	IBQ-R	Infant Behavior Questionnaire-Revised	191, Short: 91, Very Short: 37
18-36 months	ECBQ	Early Childhood Behavior Questionnaire	201, Short: 107, Very Short: 36
3-7 years	CBQ	Children's Behavior Questionnaire	195, Short: 94, Very Short: 36, Add: 67
7-10 years	TMCQ	Temperament in Middle Childhood Questionnaire	157
9-15 years	EATQ-R Self/Parent	Early Adolescence Temperament Questionnaire-Revised	Self: 103, Self Short:65, Parent: 62
Adults	ATQ	Adult Temperament Questionnaire	Long: 177, Short: 77, Original: 249

方法 手続き

- チラシ等も用いてBOLD参加者を募集
- 気質と発達の調査はBOLD参加者全員に依頼する
基幹データの的なものと位置づけ
- 調査書類等を郵送で送付
- 10か月時点の調査時には**研究者3名**が分担してオンライン面談を実施し、回答状況の確認や質疑応答を行う

京都光華女子大学 大谷多加志先生

同志社大学 加藤正晴先生



生後0か月～8か月
赤ちゃん大募集

お子さまの気質の
オンライン調査に
ご協力をお願いします!!

1
BOLD(a)に登録
生後0か月～8か月
以下の赤ちゃんのご登録
下記QRコードより

2
調査に参加予約(b)
お子さまが10か月にあたる
(10か月～11か月未満)
期間で参加可能な日時に予約

3
ご自宅に調査に参加
事前アンケート回答(郵送)
オンライン調査15分程
(ZOOM)

4
謝礼
Amazonギフトカード
1000円分
(Eメールタイプ)

(b)参加予約人数が定員に達した場合、BOLDにご登録頂いても調査に参加できないこともございます。どうぞご了承ください。

調査名 : 「気質が子どもの発達に与える影響」
目的 : 子どもの発達にその子の気質(性格の原型となるもの)が与える影響について明らかにする
対象月齢 : 10か月※ご登録後、対象月齢の10か月が近くなりましたら調査参加予約のご案内をさせていただきます。
調査回数 : 2回(10か月と1歳6か月)
調査時間 : 約15分(ZOOMで研究者と対話)
調査内容 : 事前にアンケート回答、当日はZOOM参加(保護者さまのみ)
謝礼 : 1回につきAmazonギフトカード(Eメールタイプ)1000円分

ご登録・調査詳細はこちらのQRコードから⇒

(a) BOLD (Baby's Online Live Database) は、日本赤ちゃん学会ライブデータベース研究部会が立ち上げ、同志社大学赤ちゃん学研究センターで運用している新しいオンライン調査システムです。

BOLDについてのお問い合わせ先
同志社大学赤ちゃん学研究センター
Tel: 0774-65-6873 / 6864 (平日10-16時)
E-mail: info_bolds@akachan.doshisha.ac.jp

方法

対象者と測定内容

- データ収集期間：2022年11月～2024年6月
- 10か月時点データ：229名（うち男児102）
- 18か月時点データ：148名（うち男児61）
- 測定内容：月齢10か月時にIBQ-R（Infant Behavior Questionnaire-Revised）短縮版85項目（中川他, 2009）、月齢18か月時にECBQ短縮版107項目（中川他, 2011）

お子さんの「この1週間」の様子は…

	いつも 見られた	たいていは 見られた	見られる ほうが 多かった	見られる時と 見られない時 と半々だった	見られない ほうが 多かった	めったに 見られ なかった	全く 見られ なかった	該当する 場面を経験 しなかった
睡眠中、ベビーベッド（ふとん）の中央から 端のほうへ移動する……………	7	6	5	4	3	2	1	<input type="checkbox"/>

Table

IBQ-Rに含まれる14の気質次元の各下位尺度を用いた因子分析

	Factor1 エフォートフル コントロール	Factor2 行動的 抑制傾向	Factor3 接近快活性
微笑みと笑い	.69	.10	-.08
穏やかな刺激を好む	.54	-.17	.02
声による反応性	.50	.10	.20
強い刺激を好む	.45	-.21	.03
注意の持続	.42	.07	-.09
知覚的敏感さ	.35	.12	.14
接触を好む	.25	-.25	-.03
なだめやすさ	-.01	-.94	.18
悲しみ	.09	.43	.21
不機嫌からの回復のしやすさ	.13	-.34	-.24
恐れ	.23	.31	.11
制限された時の負の情動の表出	-.19	.08	.77
期待して接近する	.18	-.08	.53
活動性のレベル	.02	.00	.50

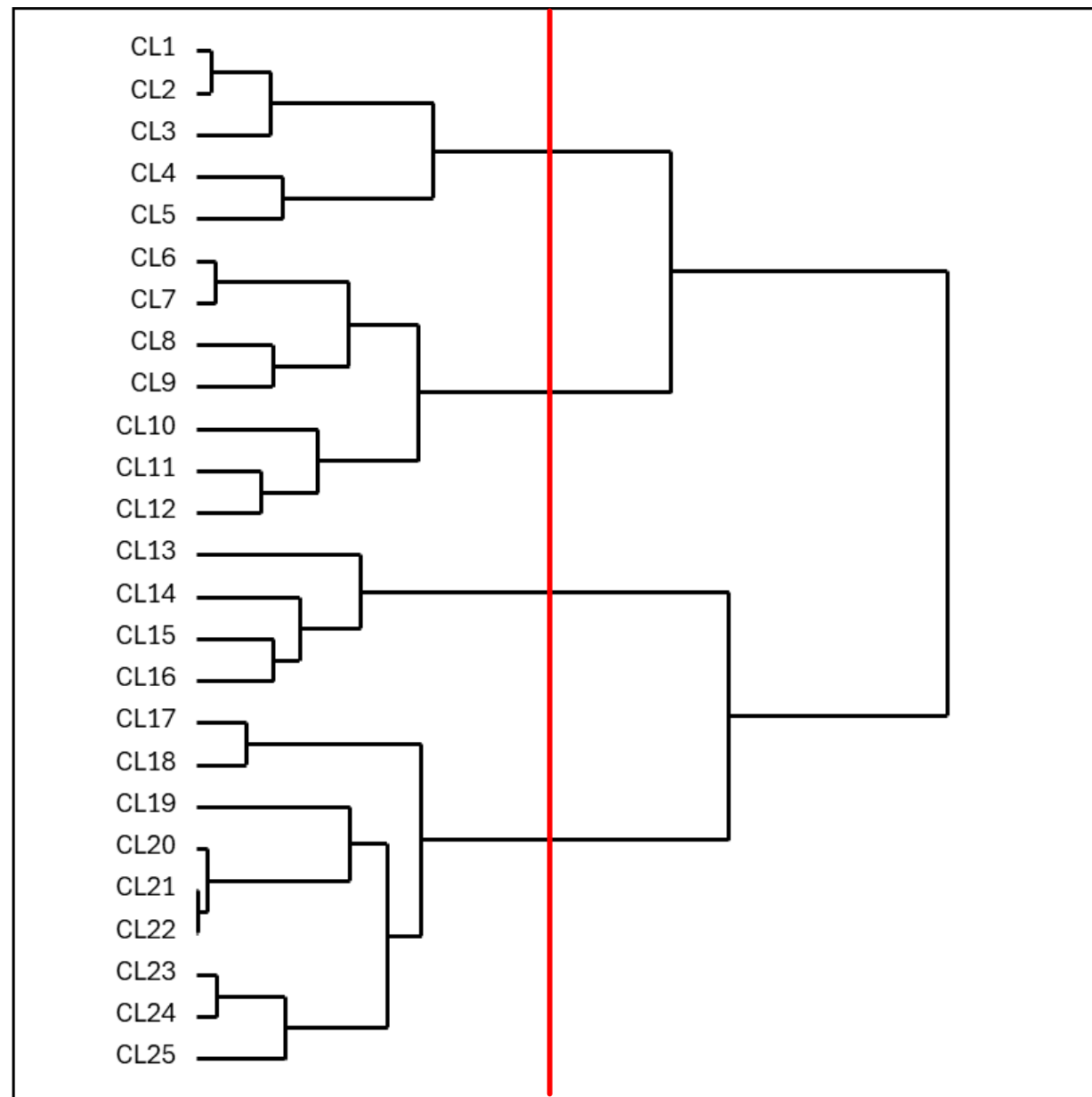
10か月時点の因子分析

3因子を抽出すると「接近快活性」「行動的抑制傾向」「エフォートフル コントロール」という視点に妥当な結果が得られた。

注) 最尤法プロマックス回転での固有値は第1因子から順に「2.66」「2.47」「1.29」「1.23」「0.99」…であったが、4因子を抽出した場合は不適解であった。最小二乗法プロマックス回転で4因子を抽出した場合は「強い刺激を好む」「接触を好む」が第4因子として分離した。

10か月時点の 14尺度得点を用いた クラスター分析・ デンドログラム

欠損値の無い179名を
4クラスターに分割した。
その後、欠損値のある50名は
判別分析で4クラスターの
いずれかに配属した。



18か月時点の因子分析

3因子を抽出すると「接近快活性」「行動的抑制傾向」「エフォートフルコントロール」という視点に妥当な結果が得られた。

注) 最尤法プロマックス回転での固有値は第1因子から順に「3.60」「2.83」「2.13」「1.98」「1.42」「1.15」「0.83」…であったが、6因子や5因子を抽出した場合は不適解であった。4因子を抽出した場合は、エフォートフルコントロールがリラックス系と興奮系の2つに分かれるような結果であった。

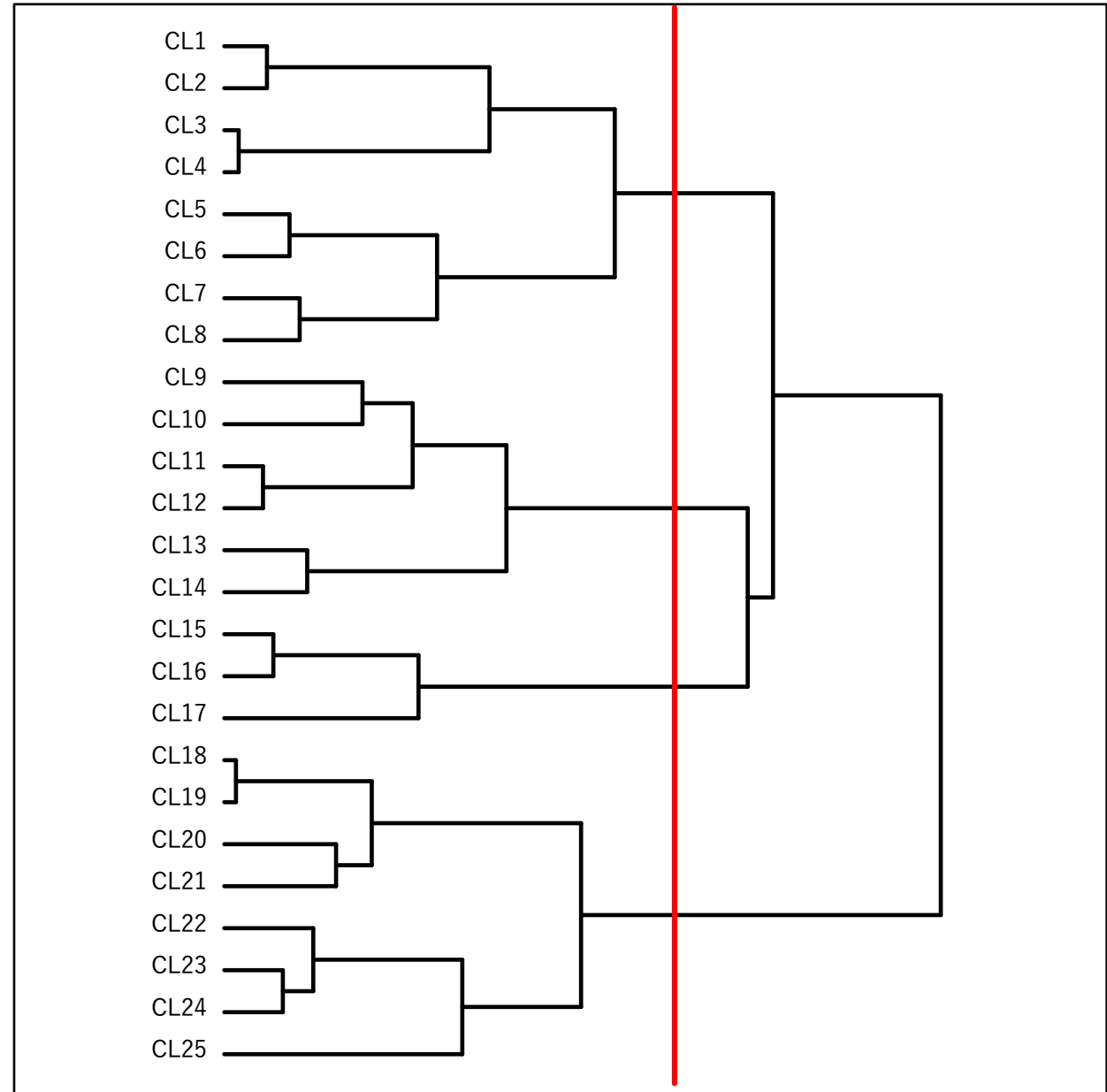
Table

ECBQに含まれる18の気質次元の各下位尺度を用いた因子分析

項目	Factor1 接近快活性	Factor2 行動的 抑制傾向	Factor3 エフォートフル コントロール
活動性のレベルと活力	-.95	.10	-.11
強い刺激を好む	-.71	.06	.13
抑制的な自己制御	.65	.42	.16
接触を好む	.62	-.29	-.40
弱い刺激を好む	.53	-.04	.10
注意の持続性	.45	.13	.29
制限された時の不満の表出	-.27	-.20	.24
注意の切り替え	.25	.02	-.08
恥ずかしがりや	.05	-.95	-.03
恐れ	.03	-.60	.28
なだめやすさ	-.07	.49	-.07
期待して興奮しやすい	.05	.20	-.03
生活環境のストレス	.01	-.12	.89
落ち着きの無さ	-.13	-.14	.55
衝動性	-.31	.00	-.42
悲しみ	-.01	-.28	.41
知覚的敏感さ	.05	.08	.26
人との関わりを好む	.00	.04	-.10

18か月時点の 18尺度得点を用いた クラスター分析・ デンドログラム

欠損値の無い61名を
4クラスターに分割した。
その後、欠損値のある87名は
判別分析で4クラスターの
いずれかに配属した。



BOLD研究で提案された10か月時点の4気質類型

扱いやすい子(育てやすい子)	乳児の約21%	期待して接近し、なだめやすく恐れは少なく、ECが高い
難しい子(育てにくい子)	乳児の約24%	機嫌が悪く、ECが低い。適応の真っ最中。
葛藤の多い子	乳児の約34%	発達的に早熟気味で、やりたいことも怖いことも多い。
おとなしい子	乳児の約21%	発達的にゆっくり気味で、低活動で低反応。

BOLD研究で提案された18か月時点の4気質類型

扱いやすい子(育てやすい子)	乳児の約23%	人との接触を好み、ネガティブ情動が低く、ECが高い。
エネルギッシュな子	乳児の約10%	活動性が高く、制限された時の不満の表出も高い。
人見知りな子	乳児の約34%	発達的に早熟気味で、ネガティブ情動が強い。
衝動的な子	乳児の約33%	発達的にゆっくり気味で、他者や外的刺激に低反応。

おわりに…

- 現在はIBQ-Rの測定を10か月時点→12か月時点に変更して継続中。
- 予算を獲得してCBQ以降も測定していきたい。
- 将来的には、ペアレントトレーニングや児童対象の行動療法において、乳幼児気質の測定から分かる個人差を生かしたオーダーメイドセラピーなど。

おわりに…

BOLD利用者からよく耳にした感想

- オンライン赤ちゃん研究参加はニーズが高い。「ネットやテレビで東大や京大の赤ちゃん研究員制度を知って貢献したいと思ったが、定期的に対面訪問するのはハードルが高くあきらめた」との意見。
- 新規参加者の大半は「SNS（Twitter, X）でBOLDの存在を知った」。
- 「個別の結果フィードバックがあれば欲しい」という人も多い。
- 参加者と研究者の直接のコミュニケーションから得られるものもあるが、時間と労力のコストも大きい。コーディネーターや補助スタッフが必要。

引用文献

水野 里恵 (2017). 子どもの気質・パーソナリティの発達心理学 金子書房

中川 敦子・木村 由佳・鋤柄 増根 (2009). 乳児の行動のチェックリスト (IBQ-R) 短縮版の作成
名古屋市立大学大学院人間文化研究科 人間文化研究, 12, 15-25.

中川 敦子・木村 由佳・鋤柄 増根・水野 里恵 (2011). 乳幼児の行動のチェックリスト (ECBQ)
短縮版の作成 名古屋市立大学大学院人間文化研究科 人間文化研究, 16, 1-15.

Rothbart, M. K. (1981). Measurement of temperament in infancy. *Child Development*, 52, 569-578.

高橋 雄介・山形 伸二・木島 伸彦・繁柵 算男・大野 裕・安藤 寿康 (2007). Grayの気質モデル
—BIS/BAS尺度日本語版の作成と双生児法による行動遺伝学的検討— パーソナリティ研究,
15, 276-289.

上村 佳世子 (2016). 43章 気質 田島 信元・岩立 志津夫・長崎 勤(編) 新・発達心理学ハンドブック (pp.483-491) 福村出版